

インドの初めての国産空母ビ克蘭ト号が進水

阿部信行

(訳者コメント)

“出雲”の進水と時を同じくして、インド国産空母第一号ビ克蘭トがインド南部の港コーチンで進水しました。

中国解放軍報は直ちに報道していますが、論調は第三者的で、中国への脅威などについては全く触れていません。

インドと中国はカシミール地方を巡って、国境紛争があり、砲火を交えることもあります。

日本の護衛艦の進水の方が中国にとって遥かに脅威を感じるからでしょう。この差が中国の対外姿勢の特色とも言えましょう。

興味のある方は、下記資料（インドの初めての国産空母ビ克蘭ト号が進水、解放軍報 20130813 07:20:05）をお読みください。

新華社ニューデリー8月12日電（記者呉強）

インドの初めての国産空母ビ克蘭ト号が8月12日、インド南部の港コーチンで正式に進水した。

ビ克蘭ト号の排水量は3.7万トン、長さ260 m、幅60 m、最高速力28ノット、航続距離8000海里である。同空母は二つのサッカー場を合わせた広さの甲板を持ち、36機の軍用機を搭載することが出来る。

現地の専門家は、ビ克蘭ト号の進水は建造が完成するまでの第一段階に過ぎない。2016年に海上での試験航行を行い、2018年に正式に就役する、それまでにミサイル等の先進武器が装備される、と述べた。

インドの国防大臣アントニーは、進水式において、ビ克蘭ト号の進水は重要な一里塚であり、今後インドが国産装備を開発するための良い先例となった、と述べた。彼は、インドは引き続き海上軍事装備を開発し、“本国の海上安全保障を図るであろう”と述べた。

ニュース速報

作者：張軍社

ビ克蘭ト号空母は、36機の航空機を搭載できる。正式に就役すると、インド海軍の戦力投入能力、対艦能力、対潜能力及び対陸地攻撃能力を含む総合作戦能力が大幅に高まる。

同時に、ビ克蘭ト号の進水は、インド海軍が2乃至3個の空母編隊を保有したいとする目標に一步近づくことになる。

報道によると、インドがロシアから購入したアドミラル・ゴルシコフ号（イン

ドはビクラマーディティア号と改名）は、2013 年末には就役するという。現役のビラート号が退役を延期するので、そのときインドはアジアで唯一 2 艘の空母を保有する国家になる。

このほか、国産第一号空母ビ克蘭ト号の完成は、インド国防工業のシンボルでもあり、同艦の完成によってインドは、世界で第 5 番目の空母の自主開発ができる国家となった。これはインド国民の誇りを高め、武器装備の自主開発能力を高めるために重要な意味がある。

（作者は、海軍軍事学術研究所副所長）

以上